

中国語話者のための日本語教育研究会

研究会趣旨：

中国語圏からの留学生は留学生総数の7割以上を占め、今後さらに増加すると思われ、そのための効果的な日本語教育が求められています。しかし、それに対応する研究の成果は、まだ多くないのが現状です。本研究会は習得研究の流れに身を置きながらも、常に現場の声に耳を傾け、日中対照研究の成果を生かして学習者の母語によるプラスの転移とマイナスの転移を体系的にとらえ、中国語話者に対する理想的な日本語教育について考えます。

<https://chuugokugowashablog.wordpress.com/>

第39回研究会

2017年7月22日（土） 12:30~17:40

【会場】 一橋大学（国立キャンパス東） 国際研究館 4F 大教室

【アクセス】 中央線国立駅下車 徒歩15分。

（地図） <http://www.hit-u.ac.jp/guide/campus/campus/index.html>

<申し込み不要・参加費無料>

※当日、学内の食堂・売店は営業していません。

プログラム

12:00 受付開始

12:30~13:10 馮 小姣（名筑波大学大学院生）

「中国人初級日本語学習者の「テイル」の学習に見られる問題点
—中国で使用されている教科書の分析を通して—」

13:10~13:50 金 前花（元埼玉大学大学院生）

「日本語の「深い」と中国語の“深”の意味について—容器メタファーの視点から—」

13:50~14:30 黄 若白（創価大学）・宮原 千咲（創価大学）

「中国語話者の「実は」使用の実態と文脈展開—I-JASの調査を通じて—」

14:40~15:20 玉岡 賀津雄（名古屋大学）・張 婧禕（名古屋大学大学院生）

「中国語母語話者は日本語の漢字熟語が正しく書けるか？
—日中メンタルレキシコンにおける漢字のネットワーク—」

15:20~16:00 熊 可欣（名古屋大学大学院生）・玉岡 賀津雄（名古屋大学）

「中国語で独自の品詞を持つ日中同形同義語の習得」

16:10~16:50 徐 文輝（金沢大学大学院生）

「インタビューにおける中級中国人日本語学習者の「ダロウ」の使用状況
—日本語母語話者の使用実態と対照しながら—」

16:50~17:30 朱 茜（新潟大学大学院生）

「日中語の動詞+動詞型複合動詞の対照研究—語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違い—」

18:00 ごろ 懇親会

中国語話者のための日本語教育研究会 事務局：劉志偉 <di82zhi@yahoo.co.jp>

第39回研究会 担当委員：庵功雄 <isaioiri@courante.plala.or.jp>

会場までの地図

<http://www.hit-u.ac.jp/guide/campus/campus/index.html>

国際研究館 4F 大教室

